

もみじ園と巴ヶ丘山荘

もみじ園の広大な敷地には、樹齢 150 年を超えるモミジやサクラなど約 400 本の木々が植えられています。緑豊かで活気に満ちた庭園と伝統的な巴ヶ丘山荘は、もともと隣接する神谷地区の裕福な地主であった高橋家のために 1896 年に造られました。現在もみじ園は公共の庭園として、春は桜の名所、秋は、10 月末から 11 月下旬までのもみじ祭りで夜間ライトアップによる色鮮やかな風景が特に人気です。

庭園は入場無料ですが、国の登録有形文化財である巴ヶ丘山荘のガイドツアー（日本語のみ）は 200 円の費用と事前予約が必要です。もみじ園は水曜と冬期（12 月から 3 月）は休園日です。庭園入口の門近くの伝統的な小さな蔵を改装した「高九蔵 Cafe」では、ドリンクやスイーツ、軽食を提供しています。カフェは月曜日、火曜日、木曜日、金曜日に営業しています。

もみじの庭園

もみじ園の面積は約 4,000 平方メートルです。庭園の名にふさわしく、広大な敷地の木々の多くはモミジです。庭園創設の際、京都から特別に持ち込まれた 5 種類のモミジの木のうち、最も本数が多いのは日本に古くから伝わるイロハモミジです。

庭園にはソメイヨシノやヤマザクラの桜もあります。ここは、東京のソメイヨシノが北国の寒い冬に耐えられるかどうかを実験するために、新潟県で初めて植えられた場所です。現在、木々は生い茂り、春の開花時期には庭に可憐なピンクの色合いを添えます。

園内の散策路にはツツジ、ユリ、藤、そしてアジサイなど季節の花々が植えられています。境内には慈悲の観音菩薩や医学の薬師如来などの石仏が安置されています。もみじ園の東側の展望台からは眼下の市街地を一望できます。

巴ヶ丘山荘

もみじ園の設計は、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて高橋家の別荘だった巴ヶ丘山荘を中心に構成されています。別荘の建設を命じたのは、10 代目当主の高橋九郎（1851 年～1922 年）でした。彼は、日本の急速な工業化の時代に社会的地位の低い人々の福祉の向上に尽力した政治家でした。英国の経済学者で改革者であるシドニー・ウェブ（1859 年～1947 年）と、その妻で社会学者及び社会経済研究者であるベアトリス・ウェブ（1858 年～1943 年）を含め、多くの著名なゲストが別荘を訪れ、彼と討論や意見交換を行いました。

別邸は平屋の寄棟造で構成されています。建物内には茶室のほか「桜の間」、「もみじの間」、「囲炉裏の間」、「松木の間」などのポエム的な名前がついた伝統風な座敷が数多くあります。もみじの間の畳に座り眺めるもみじ庭園の眺めは、もみじ園の中でも最も素晴らしいといわれています。